

フォーレ ラシーヌ讃歌 (Cantique de Jean Racine) op.11

フランス南部で生まれたフォーレは、幼い頃から音楽の才能を発揮し、1854年、9歳でニデルマイエール音楽学校に入学した。1865年、フォーレはこの学校の卒業作品として当曲を作曲し、作曲部門一等賞を獲得した。楽譜はセザール・フランクに献呈されている。もとはオルガンと混声四部合唱による作品だが、のちに弦楽とオルガンによる伴奏で1866年8月4日に初演された。より大規模なオーケストラ版もフォーレ自身によって書かれた可能性があり、それは1906年1月28日に初演されている。

歌詞は、コルネイユ、モリエールと並んで、ルイ14世の治世における3大古典作家と称されるジャン・ラシーヌ(1639-99)の作である。しかしその歌詞の大元は、4世紀の聖アンブロジウス作とされる、火曜日朝の祈りのためのラテン語賛歌「*Consors paterni luminis*」である。ラシーヌはこれをフランス語に意識して作詞した。これは1688年に「ローマ聖務日課書翻訳賛歌集」に収録された。

フォーレ レクイエム op.48 1893年版 (ジョン・ラター校訂)

よくフォーレがこのレクイエムを書いた動機として、1885年に父を、1887年暮れに母を亡くしたことがあげられているが、それは違うようだ。彼は「私のレクイエムは、特定の人物を意識して書いたものではない。あえて言えば楽しみのためでしょうか」と書いているという。いずれにせよ、後述のように歌詞のカット等もあるため、当時としては礼拝に用いることができない作品であった。

ところで、本日演奏するのは、ジョン・ラター校訂による小編成オーケストラ伴奏の1893年版である。

フォーレは1887/88年に、「入祭唱&キリエ」「サンクトゥス」「ピエ・イエズ」「アニュス・デイ」「イン・パラディズム」の5曲を作曲した。これが第1稿で1888年1月16日に初演された。

ついで「奉献唱」「リベラ・メ」を加えた第2稿が1893年に完成し、同年1月21日に初演された。ここまでいずれも小編成オーケストラによるものである。

かつて、この曲の名盤と言えば、クリュイタンス指揮 EMI 盤とコルボ指揮 ERATO 盤だった。これらの名演奏で聴けるフルオーケストラ版=第3稿は、1900年7月のパリ万国博覧会で初演されている。しかしこの第3稿は、全くフォーレの手によるものではなく、彼の弟子ジャン・ロジェ・デュカスによるものであったことが明らかになっている。何と云うことだ！

一方、フォーレ自身による1893年第2稿小編成オケ版の自筆譜は失われてしまっているので、1980年代に音楽学者による復元校訂がなされており、現在は2種類の校訂版が存在している。

1つはイギリスの作曲家ジョン・ラターが校訂し1984年に発表した「ラター版」である。同年にラター自ら指揮して録音されCDが出ている。楽譜はオックスフォード大学出版から出ている。この版は(もちろん違いはたくさんあるけれど)フルオーケストラ版の音楽的特徴を残したまま、小編成版にしている。

もう1つは1988年、ジャン・ミシェル・ネクトゥーとロジェ・ドラージュの校訂により発表された「ネクトゥー & ドラージュ版」である。楽譜は、フルオーケストラ版と同じ版元のアメル社から1994年に出版された。

この版は、ラター版と異なり、かなり多くの箇所、歌詞割りやオーケストラの音型がフルオーケストラ版と違う。誰もが聴いてわかるのは、「リベラ・メ」の *Dies illa* 部分におけるホルンのリズムであろう。ラター版はフルオーケストラ第3版と同じ「ンパバ・パーパバ・パー」のリズムだが、ネクトゥー & ドラージュ版は「ンパバ・パパバパバ・パー」と四分音符の6連打になっている。ピリオド楽器オケを率いる指揮者ガーディナーやヘレヴェッヘなどは、このネクトゥー & ドラージュ版で録音している。

最後にフォーレ「レクイエム」の歌詞について。

フォーレは続唱「*Dies Irae* (怒りの日)」を全てカットしている。そのため静謐さがこの曲の最大の特徴となっている。

しかしこれ以外にも、いろいろと本来のレクイエム・ミサの歌詞をカットしている。例えば、第2曲「奉献唱」では本来3つの節からなる歌詞の第2節 *Sed signifer Sanctus Michael* を全カットし、さらに第1節でもいくつかの単語をカットしている。続く第3曲「サンクトゥス」も後半の *Benedictus* 以降をカットしている。その代わりに第4曲に本来の固有文に無い「*ピエ・イエズ*」を置いているが、この歌詞は続唱の最後の2行と同じものである。

フォーレ ラシーヌ讃歌 op.11

Verbe égal au Très-Haut, notre unique espérance
Jour éternel de la terre et des cieux,
De la paisible nuit nous rompons le silence:
Divin sauveur, jette sur nous les yeux.

至高者に等しい言葉、我らの唯一の望み
地と天の、永遠の日の光よ。
穏やかな夜に、我らはその静けさを壊す。
神聖なる救済者よ、我らに視線を投げかけよ。

Répands sur nous le feu de ta grâce puissante;
Que tout l'enfer fuie au son de ta voix;
Dissipe le sommeil d'une âme languissante,
Qui la conduit à l'oubli de tes lois.

汝の強い恩寵の炎を、我らに注ぎたまえ。
全ての地獄の鬼達が汝の声の響きから逃げますように。
衰弱した魂の眠りを晴らしたまえ、
それ(眠り)は汝の掟を忘れるように導くものだから。

Ô Christ! sois favorable à ce peuple fidèle,
Pour te bénir maintenant rassemblé;
Reçois les chants qu'il offre à ta gloire immortelle;
Et de tes dons qu'il retourne comblé.

おおキリストよ！ この忠実な人々に好意的であれ。
汝を祝福するために、今ここに集められた人々を。
歌を受け取りたまえ。汝の不滅の栄光に捧げる、
汝の賜物で満たされた人々の返礼である歌を。

フォーレ レクイエム op.48

1. Introït et Kyrie <入祭唱&キリエ>

Requiem aeternam dona eis, Domine,
et lux perpetua luceat eis.
Te decet hymnus, Deus, in Sion,
et tibi reddetur votum in Jerusalem.
Exaudi orationem meam,
ad te omnis caro veniet.

永遠の平安を彼らに与え給え、主よ、
永遠の光が彼らに照らされんことを。
神よ、讃美歌はシオンにて汝を飾り、
誓いはエルサレムにて汝に果たされるだろう。
私の祈りを聞き給え、
汝の傍らに全ての肉体は来るだろう。

Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

主よ、憐れみたまえ。
キリストよ、憐れみたまえ。
主よ、憐れみたまえ。

2. Offertoire <奉献唱>

O Domine Jesu Christe, Rex gloriae,
libera animas defunctorum
de poenis inferni, et de profundo lacu;
de ore leonis,
ne absorbeat tartarus,
ne cadant in obscurum.

※ 1 おお、主イエス・キリストよ、栄光の王よ、
解き放ち給え、死んだ魂たちを
※ 2 地獄の罰から、そして深い淵から、
獅子の口から。
地獄が(魂たちを)飲み込まないように、
(魂たちが)暗黒に落ちないように。

Hostias et preces tibi, Domine, laudis offerimus.
Tu suscipe pro animabus illis,
quarum hodie memoriam facimus.
Fac eas, Domine, de morte transire ad vitam,
quam olim Abrahae promisisti et semini ejus.
Amen.

※ 3 犠牲と賛美の祈りを、主よ、汝に、我々は捧げる。
汝は受け給え、その魂たちのために、
今日、我々が行う(魂たちの)記念を。
主よ、魂たちを、死から生へと移させ給え、
※ 4 かつて汝が、アブラハムとその子孫に約束されたように。
アーメン。

- ※ 1 libera animas (omnium fidelium) defunctorum カッコ内の 2 語省略。(全ての死んだ信者の魂たちを解き放ち給え)
- ※ 2 (libera eas) de ore leonis, カッコ内の 2 語省略。(それら=魂たちを解き放ち給え、獅子の口から)
- ※ 3 奉献唱第 2 節 Sed signifer Sanctus Michael ...が省略されている。
- ※ 4 本来はここに Amen は無い。(冒頭の O も無い。)

3. Sanctus <サンクトゥス>

Sanctus, sanctus, sanctus,
Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt coeli et terra gloria tua.
Hosanna in excelsis.

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
万軍の主なる神よ。
天と地は、あなたの栄光で満ちている。
天の高きところに、ホサナ。

※ 5 Benedictus は省略されている。

4. Pie Jesu <ピエ・イエズ>

Pie Jesu Domine, dona eis requiem.

慈悲深い主イエスよ、彼らに平安を与え給え。

※ 6 この歌詞は「続唱（怒りの日）」の最後の 2 行と同じである。

5. Agnus Dei <アニュス・デイ>

Agnus dei, qui tollis peccata mundi
dona eis requiem,
sempiternam requiem .

世の罪を取り除き給う神の子羊よ、
彼らに平安を与え給え、
永遠の平安を。

<Communio（聖体拝領唱）>

Lux aeterna luceat eis, Domine:
Cum Sanctis tuis in aeternum,
quia pius es.

主よ、永遠の光は彼らに輝く、
汝の聖者たちと共に永遠のうちに、
汝が慈悲深い故に。

Requiem aeternam dona eis, Domine,
et lux perpetua luceat eis.

永遠の平安を彼らに与え給え、主よ、
永遠の光が彼らに照らされんことを。

6. Libera me <リベラ・メ（赦祷文）>

Libera me, Domine, de morte aeterna,
in die illa tremenda,
quando coeli movendi sunt et terra,
dum veneris judicare saeculum per ignem.

主よ、私を永遠の死から解放し給え、
その恐ろしい日に、
天と地が揺り動かされるその時、
汝が火を以てこの世を裁きに来る時。

Tremens factus sum ego et timeo,
dum discussio venerit atque ventura ira.

私は震えさせられ、そして怖れる、
判決と起こるべき怒りが来る時。

Dies illa, dies irae
calamitatis et miseriae,
dies magna et amara valde.

その日、怒りの日、
禍いと不幸の(日)
大いなる、そして非常に苦しい日。

Requiem aeternam dona eis, Domine,
et lux perpetua luceat eis.

永遠の平安を彼らに与え給え、主よ、
永遠の光が彼らに照らされんことを。

7. In Paradisum <楽園歌>

In Paradisum deducant te Angeli;
in tuo adventu suscipiant te martyres
et perducant te in civitatem sanctam Jerusalem.
Chorus Angelorum te suscipiat,
et cum Lazaro quondam paupere,
aeternam habeas requiem.

あなた（＝死者）を天使たちが楽園へ導きますように。
あなたの到着の際、殉教者たちがあなたを迎えますように。
そしてあなたを聖なる都市エルサレムへ導きますように。
天使たちの合唱隊があなたを迎えますように。
そして、かつては貧しかったラザロと共に
あなたが、永遠の平安を保ちますように。